

Company Information



1.代表理事挨拶

環境問題は歴史が浅く、国際的な環境問題に対する取り組みとしては、1960年代から開始され、1972年に国連人間環境会議の開催と国連環境計画の設立が行われました。また日本においては、1971年に環境省が設置され、本格的に環境問題への取り組みがなされてきました。

当時は、産業公害問題、都市・生活型環境問題と、限られた地域での環境問題でしたが、この数十年の間に広がるスピードは速くかつ解決までに時間を有する地球環境問題となり、問題解決には長期的な視点でかつ国境を越えた地球規模での対応策が必要となってきました。

そこで我々は、この長期的でかつ広域的な環境問題を解決していくためには、柔軟なアイデアを持った若くて優秀な人材を育てていく必要があると考えております。そのためにも、我々の役割として、環境保全（技術）に関する学術研究への助成を行い、環境教育等の振興を図り、持続可能な社会の実現に向けて、未来の子供たち、地域社会、日本、地球環境へ貢献する人材を育成できる環境づくりを整備するために、財団法人を設立し、令和5年4月に内閣総理大臣より公益法人として認定をいただきました。

当財団はこれからより一層、学術研究助成を通じて循環型社会の実現に向けた取り組みを支援し、社会の持続的な発展に貢献する活動を行っていきます。

公益財団法人 令和環境財団

代表理事 小沢 常浩



2.財団概要

(1)法人概要

法人名	公益財団法人 令和環境財団
代表理事	小沢 常浩
設立年月日	令和4年3月16日（令和5年4月7日 内閣総理大臣より公益認定）
住所	東京都港区南青山六丁目6番22号 クレスト・イシイ2階
電話番号	03-6427-6627
URL	https://reiwa-kankyo.org/

(2)事業目的

この法人は、環境保全に関する学術研究への助成を行い、環境教育等の振興を図り、地球環境の保全に貢献していくことを目的とする。

- 環境保全に関する学術研究への助成事業
- その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(3)役員名簿

代表理事	小沢 常浩	株式会社小沢資産ソリューション 代表取締役
理事	馬奈木 俊介	国立大学法人 九州大学 都市システム学 教授
理事	古瀬 智之	公益財団法人 日本健康アカデミー 理事長
評議員	木下 通夫	元県庁職員
評議員	中瀬 心之介	循環資源ホールディングス株式会社 代表取締役
評議員	栗村 圭吾	税理士/みのり税理士法人 代表社員
監事	小池 貢樹	グリーンアースパワー株式会社 代表取締役

3.学術研究募集要項

応募資格

- ・毎年4月2日現在、国内の大学院博士課程に在籍する研究者で35歳以下の方。
- ・国籍は問いませんが、博士論文提出までの居住地が日本国内の方。
- ・申請する研究内容は、環境分野における博士号取得を目的としたものであれば、今後着手する研究、すでに研究途上にある研究のどちらでも構いません。

対象期間

毎年4月1日から翌年3月31日までに実施予定の研究を対象とする。

助成金額・使途

1名あたり50万円を上限とします。(最大6名程度)

※助成金は、助成が決定次第、申請者本人の口座に送金いたします。

※助成金の使途は限定しません。ただし、大学等申請者が所属する組織の間接経費、一般管理費等は助成の対象外となりますのでご注意ください。

審査、審査結果の通知

当財団の選考委員会による公正な審査を経て、毎年8月末までに審査結果を文書にて 応募者にお知らせいたします。

応募方法、締め切り

- ・ご提出いただいた書類は返却しかねますので、ご了承ください。
- ・所定の申請書に研究計画など所要事項を記載し、研究指導者による推薦を受けたうえ、締切日までに郵送もしくはE-mailにてご提出ください。
- ・詳細は当財団のホームページからご確認ください。



<https://reiwa-kankyo.org/>

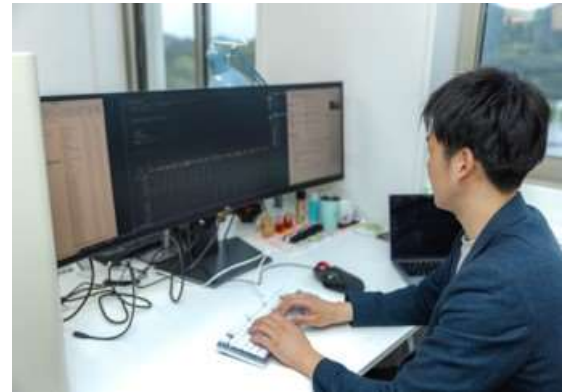
4.助成実績

令和4年度実績

九州大学大学院 馬奈木研究室 小松原 建人さん

この助成によって、生態系の利用価値と家庭での再生可能エネルギー利用の可能性を詳細に把握し、都市環境の持続可能性向上に向けた具体的な道筋を描くことができました。

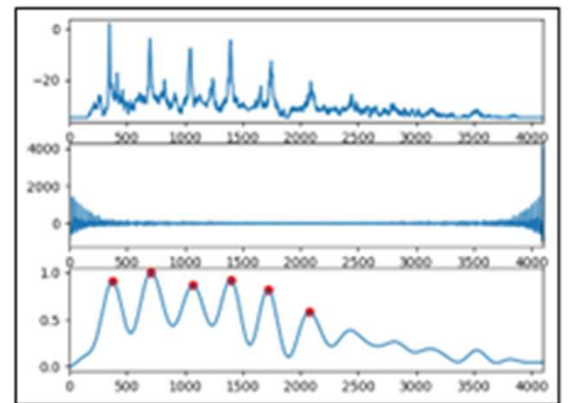
※助成金の主な用途: 研究に使用するPC及びモニターの購入費



九州大学大学院 都市工学・交通工学研究室 島村 拓弥さん

私は、自然資本・人的資本・人工資本の観点から、都市空間における社会インパクトの包括的な評価に取り組んでいます。本研究では特に、音声を用いて環境評価に用いるシャドウプライスを定量化する深層学習モデルの開発を行いました。

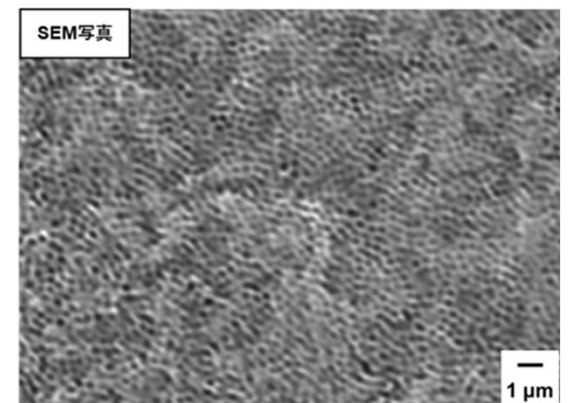
※助成金の主な用途: 音声収録アンケート調査のWebアプリケーション制作費



北陸先端科学大学院大学 金子達雄研究室 ZHOU Jiabeiさん

本研究により、イートン試薬を用いた合成したホモポリマーPBIをシリカエッチングすることで均質なナノ孔を有したポラスフィルムが得られた。それに、窒素雰囲気下かつ800℃でポラスPBIフィルムを焼成し、エアコンポジットカーボン材料が得られた。

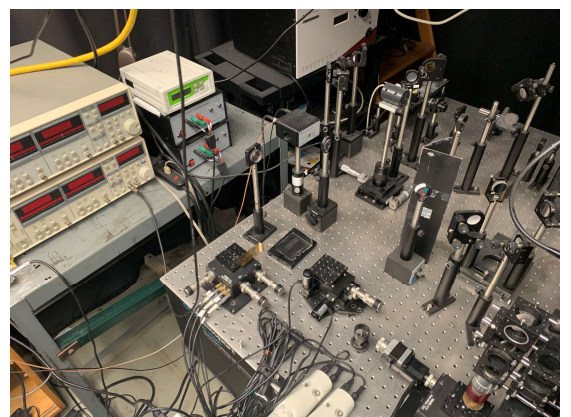
※助成金の主な用途: データに分析と図表作成に使用するPCの購入費、学会参加費等



東京大学大学院 塩見研究室 永廣 怜平さん

本助成金により、Northwestern大学(イリノイ州, 米国)での実験および、現地の研究者との議論が可能となり、高速焼結により作製した高い熱電性能をもつバルクシリコン熱電材料の熱伝導率低下のメカニズム、特に材料内に印加されるひずみによるLattice softeningの効果を解明した。

※助成金の主な用途: 12月～3月(121日)の海外研究機関での現地滞在費



令和5年度実績

三重大学大学院 草地・飼料生産学 股村 真也さん

私は持続可能な肉牛生産を支援するため、デンプンの利用効率をAIの活用により簡易に推定する方法を開発している。本助成金により、AIモデル構築のための機材を購入することができ、糞中デンプン含量を簡易に定量できる可能性を示した。

※助成金の主な使途: 解析に用いるパソコンの購入費、学会参加及びサンプリングする際の旅費



三重大学大学院 水産物品質学研究室 児島 美穂さん

本申請研究では、これまでにCFS9株のゲノム解析をバイオインフォマティクス的手法を用いて行った。具体的には、ゲノム特徴マップ、系統樹、ANI、GGDC解析を行い、その結果から、CFS9株が新種であることが示唆されている。今後はCFS9株の新種記載を行い、エドワジエラ病原細菌に対する阻害物質と遺伝子の同定を進め、魚類の病気防除技術の確立を目指す。

※助成金の主な使途: 解読及びアセンブリ作業の外部委託費、研究に使用する消耗品の購入費、論文投稿費

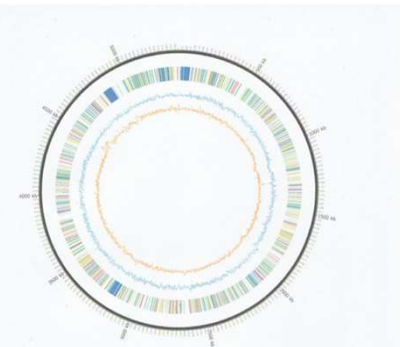
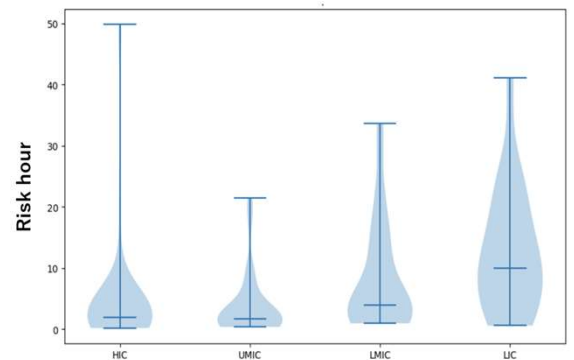


図1: CFS9 株の全ゲノム特徴マップ (GenMap)
外周から内周に向かって、COG category、GC skew、GC contents を示す。COG については、同属の他種 (Flavobacterium funicola) と対して COG category が Q の遺伝子の割合が多かった。GC skew に関して、いくつかの変動点が存在し、DNA 複製起点 (終点) が推定することができる。

九州大学大学院 馬奈木研究室 篠原 宣道さん

近年、欧州連合(EU)が推進する企業の持続可能性に関するデューデリジェンスにより、企業はサプライチェーンの川上における人権リスクを考慮するようになってきている。本研究では、九州大学都市研究センターが提唱するMRSEIO (Multi-Regional Socially-extended InputOutput) を用いて、国別・産業別の包括的な社会的人権リスク負担の傾向を明らかにすることを目的とする。分析の結果、人権侵害リスクの中央値は高所得国(HIC)の方が上位中所得国(UMIC)よりも高いという逆転現象が確認された。

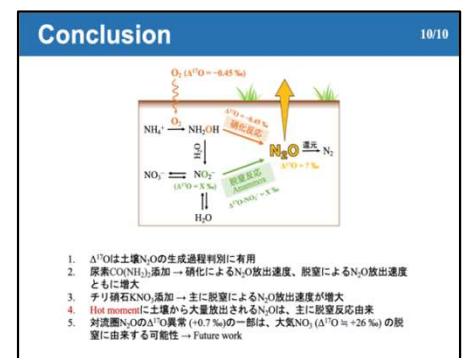
※助成金の主な使途: 研究に使用するオフィス機器の購入費、分析に用いる解析ソフトの購入およびデータライセンス費



名古屋大学大学院 角皆・中川研究室 丁 瑋天さん

この助成によって、ガスポンプの購入や採取チャンバーを作成し、土壌より放出されるN₂Oの年間変動が調査できまして、N₂Oの $\Delta^{17}O$ は、土壌N₂Oの生成過程推定に有用だと結論しました。また、助成によって、この研究成果を中国の南京大の若手討論会でポスター発表や日本地球化学会で口頭発表しました。

※助成金の主な使途: サンプリングに使用する消耗品費、研究成果学会発表に伴う旅費等



関西大学大学院 分離システム工学研究室 樋口 雄斗さん

私は、「ゼオライト」とよばれる無機多孔質材料が示す特異なCO₂吸着挙動に関して研究してます。現状、ゼオライト合成に加えて、Spring-8や計算化学などを駆使して多角的な観点からCO₂吸着メカニズムの解明に従事しています。

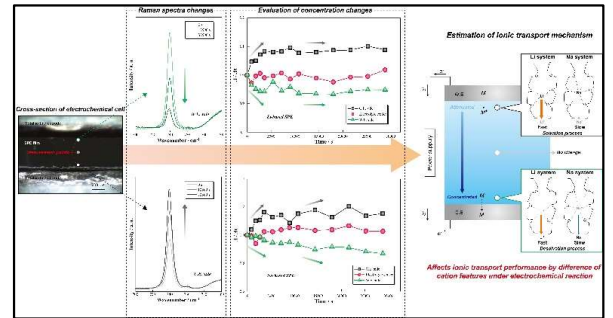
※助成金の主な用途:研究に使用する消耗品及び化学薬品の購入費



工学院大学大学院 電気材料化学研究室(関研究室)
平岡 紘次さん

電極反応に伴う高分子固体電解質内の濃度変化をその場で観測できるオペランドラマン分光計測を基軸として、この合材電極に含まれる活物質における充放電反応による構造変化の抽出への適用、及び実用Liイオン電池との相補的評価を進めている。

※助成金の主な用途:オペランドラマン分光計測に使用する専用セルの購入費、その他消耗品及び備品購入費等



5.お問合せ

公益財団法人 令和環境財団

〒107-0062

東京都港区南青山六丁目6番22号 クレスト・イシ12階

TEL :03-6427-6627

FAX :03-6427-6328

MAIL:info@reiwa-kankyo.org

URL :reiwa-kankyo.org





公益財団法人
令和環境財団



<https://reiwa-kankyo.org/>